

## 【vol.50】マイナーキーことはじめ ～その2～ CメジャーとAマイナーは平行調

こんにちは、大沼です。

前回から、マイナーキーの内容に入っていましたね。

まずは、マイナーキーのそもそもの概念として、  
ナチュラルマイナースケールや、マイナーキー時の  
ダイアトニックコードについて学びました。

それらを踏まえた上で、今回の内容は、  
以前から、たまーに出てきていた、

『あるメジャーキーと、あるマイナーキーの関係性』

に、ついてです。

両者に関係性がある事は、なんとなく知っているかと思いますが、  
そろそろ詳しくやっておきましょう。

この辺りがちゃんと理解できると、これまで覚えてきた、  
メジャーキー時のスケールやら、コードやら、インターバルの位置関係やらが、  
そのままマイナーキーの楽曲で使えます。

キーワードは、

『ずらして考える』

です。

タイトルにもあるように、例としては、いつものように、  
CメジャーとAマイナーの両者で見えていきます。

ではまず、前回のテキストに、

・CメジャースケールとAナチュラルマイナースケールの構成音は同じ

・C メジャーキーとA マイナーキーのダイアトニックコードは(出てくるものは)同じ

と言う内容がありましたね。

単純に考えて、C、D、E、F、G、A、B(ドレミファソラシ)の7音を使って、

・C音から始めた(tonicに見た)、C、D、E、F、G、A、Bと言う音階ならば、  
それはCメジャースケール

・A音から始めた(tonicに見た)、A、B、C、D、E、F、Gと言う音階ならば、  
それはAナチュラルマイナースケール

と、この様に捉える事もできます。

しかし、ずっとこの講座でお話ししてきたように、音楽理論、楽典を学ぶ上で重要なのは、

『(基本的には)インターバルで理解、把握していること』

なのです。

『メジャースケール』とは、

トニックから、全、全、半、全、全、全、半の間隔、要するに、  
tonic、M2nd、M3rd、P4th、P5th、M6th、M7thのインターバルで構成された音階

ですし、

『ナチュラルマイナースケール』とは、

トニックから、全、半、全、全、半、全、全の間隔、要するに、  
tonic、M2nd、m3rd、P4th、P5th、m6th、m7thのインターバルで構成された音階

の事を指します。

これらを丸覚えして「ぜん、ぜん、はん～」とか、口でパッと言えなくても構いませんが、  
ギターの指板上では、ちょっと考えたら、それぞれのスケールを弾けたり、  
各音のインターバルを、ゆっくりでも良いので、言えるくらいにはなっておきましょう。

スケール(と言うか楽典の概念)はインターバルで把握する、と言う事がわかっていないと、  
先程の、

・C音から始めた、C、D、E、F、G、A、Bと言う音階ならば、それはCメジャースケールと、言った様な知識から、

『じゃあ、ドレミファソラシ(ド)の、ミ(E音)から始めたら、それはEメジャースケールなの?』

みたいな、理解のズレが起こる可能性がありますので。  
(Eメジャースケールの構成音はE、F $\sharp$ 、G $\sharp$ 、A、B、C $\sharp$ 、D $\sharp$ になりますよね?)

さて、では、前置きはここまでにして、本題に入っていきます。

もう耳タコなくらい書いていますが、

- ・CメジャースケールとAナチュラルマイナースケールの構成音
- ・CキーとAマイナーキーのダイアトニックコード

は、それぞれ(出てくるものは)まったく同じなわけです。

で、この両者と同じような関係性が、残りの全ての音(12音階の12音)を基準にした、各keyとそれに対応するスケールにもあります。

要するに、

『構成音が全て一致する、メジャー、マイナーのkeyが1つ(1組)ずつある』

と、言う事ですね。

そのような関係性を持つ2つのkeyを、

『平行調(へいこうちょう)』

と、呼びます。

(※もしくは「両者は平行調の関係にある」みたいな表現をします)

Cキーの平行調はAmキーですし、Amキーの平行調はCキーです。

この、(構成音がまったく同じである、という所から来る)『平行』な関係性を、まずは捉えてください。

単純に、CDEFGAB の 7 音を並べて、

**C、D、E、F、G、A、B、C、D、E、F、G、A**

|←----- →| (この範囲で見ると C メジャースケール)

|←----- →| (この範囲で見ると A ナチュラルマイナースケール)

と、この様になりますよね。

(※C メジャーが赤字の C から緑字の C まで、

A ナチュラルマイナーが緑字の A から青字の A まで、と見る)

『平行調』という言葉の「平行」に関しては、上の様なイメージを持つと良いかもしれません。

英語では、relative (リラティブ or レラティブ、「相対的な」の意)と言う単語を使って、  
『relative key(リラティブ・キー)』と呼ばれます。

なので先程の、日本語での平行調の時と同じ様に、  
C キーのリラティブ・キー は Am キーで、Am キーのリラティブ・キーは C キーです。

これらの事から、

『C キーと Am キーはリラティブな関係性(相対的な、平行な、平行調としての関係性)にある』

と、言い表すことができますね。

で、私事で申し訳ないのですが、僕はこれらを最初に覚えたときに、  
英語の「リラティブ」の方で覚えたので、今後の講座では、日本語の「平行調」ではなく、  
「リラティブ」の方が、解説で多く出てくる可能性が高いです。

極力、わかりやすいように使い分けていくつもりですが、もし「リラティブ」に偏ってきたら、  
「ああ、平行調(とそれに付随する関係性)のことね」と、思ってください。

話が逸れました。

さて、ここまで来たら、もう 1 つ、単語とその概念を覚えてしまいましょう。

普通の楽曲は、メジャーキーかマイナーキーの、どちらかに設定されて作られるわけですが、基本的なアレンジ手法として、『楽曲内のどこかで、平行調に転調する』と、言うような状況があります。

例えば、曲のスタートからAメロ、Bメロまでは、Cメジャーキー的な明るい感じだけど、サビからはAmキー的に暗い雰囲気になる、と言ったような感じです。  
(※もしくはその逆パターンとかもあります)

この手法は、正確に言うと、「転調」というよりは、『キーセンターを構成音の中で移動させている』という表現が一番近い様な気がしますが、一般的な実用レベルでは、CメジャーキーからAmキーに「平行調への転調(みたいなこと)をしている」くらいの解釈で十分です。

このような場合や、もっと言ってしまえば、最初にメジャー、マイナーのどちらのキーで考えていても、その(元の)キーを把握すると同時に、平行調のキーも把握しているのがベストなのです。  
(※例えば、Cキーの曲を弾いていたら、同時にその曲をAmキーの観点から見れること)

これは、すぐには難しいと思いますが、リラティブ・キーの相互の関連性がわかっていると、バックিং、リードプレイのどちらにも、新しいアイデアが生まれやすくなるので、少しずつ慣れていきましょう。  
(※なぜ新しいアイデアが生まれやすくなるのか？は、やってみればわかります)

で、そのリラティブな関係性を表す言葉として、

- ・リラティブ・メジャー(Relative Major)
- ・リラティブ・マイナー(Relative Minor)

と言うものがあります。

これは意味としては、先ほどの平行調(リラティブ・キー)とほぼ同じなのですが、メジャー、マイナーのどちらかを基準とした時、もう片方の、対になっている、キーやスケールを指す時に使います。

具体的な例をあげると、

- ・『Cキーに対するリラティブ・マイナーはAmキー』
- ・『Cメジャースケールに対するリラティブ・マイナー(のスケール)は、Aナチュラルマイナースケール』

・『Am キーに対するリラティブ・メジャーは C キー』

・『A ナチュラルマイナースケールに対するリラティブ・メジャー(のスケール)は、  
C メジャースケール』

と、こんな感じで使います。

**最初に基準に考えているものが、メジャーのキーやスケールならば、  
反対の(平行調の)『リラティブ・マイナーは〇〇』**

**最初に基準に考えているものが、マイナーのキーやスケールならば、  
反対の(平行調の)『リラティブ・メジャーは〇〇』**

と、この様に考えるのですね。

この、リラティブの関係性に慣れてくると、例えば、Em キーの曲を弾きながら、同時に、  
G キー的にも、コード進行を捉えていたりします。(※この2つはリラティブな関係ですよ)

先ほど「リラティブ・キーに慣れるとアイデアが生まれやすくなる」と言いましたが、  
この様な状態になっていると、Em キーの曲の中で、  
G キーの曲で学んだフレーズやアイデアが活かせることがあるのです。

なぜなら、Em キーと G キーの両キーは、基本的な構成音がまったく同じキーなので、  
どちらで、どちらのアイデアを使っても OK な(可能性がある)わけです。  
(※もちろん、全てのプレイが 100%使えるわけではありません。その時々によります。)

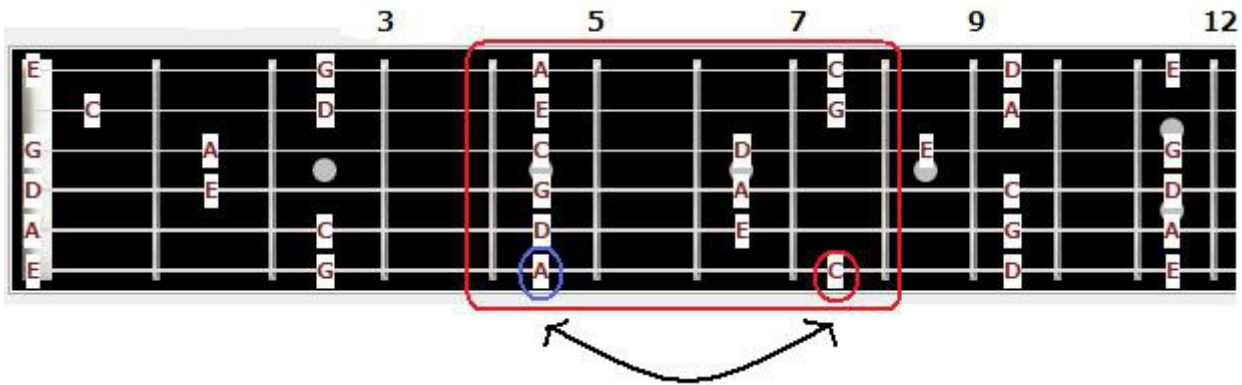
こういった、実際のプレイやアレンジに大きく関わってくる概念なので、  
今回、詳しく取り上げているのですね。

では、理屈はこの辺りまでにしておいて、最後に、リラティブ・キーに相当する両者の関係を、  
ギター指板上ではどの様に見えるのか？それをやっていきましょう。

まず、一番わかりやすいのが、ペンタトニックスケールのフォームを元に、  
リラティブ・キーのトータル・センターの位置を見る方法です。

例えば C キーを基準にしていた場合、リラティブ・マイナーである Am キーのトータル・センター、  
A 音はこの位置になります。

図、Cメジャーペンタ& Am ペンタの重要ポジションに見る、リラティブ・キーのトナル・センター

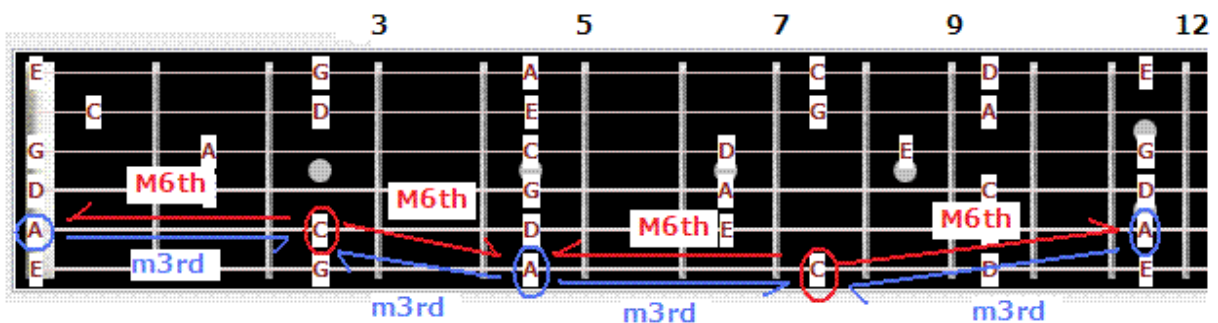


Cキーの楽曲を演奏していて、Cキーのトナル・センターであるC音が、6弦8フレットにあることがわかっている場合、リラティブ・マイナーのAmキーのトナル・センター、A音はこの位置になります。

逆にAmキーのトナル・センターであるA音から見たら、リラティブ・メジャーのトナル・センターであるC音はこの位置にある、と言う事ですね。

CキーとAmキーのトナル・センター(≒スケールのトニック)をインターバル的に見るならば、

- ・メジャーキー側から見ると、トニックである、C音の長6度上の音 (tonic から見て M6th にあたる音)が、リラティブ・マイナーのトニックで、
- ・マイナーキー側から見ると、トニックである、A音の短3度上の音 (tonic から見て m3rd にあたる音)が、リラティブ・メジャーのトニックになります。



これについては、「CからみたAはM6thの距離」とした場合、対象(A音)を上の方に見ていますが、逆に、Cから低い方にAを見ると、距離的にはm3rd(全音半、ギター的には3フレットの距離)となりますよね。

この、インターバルを逆方向に見れる(数えられる)ことも、実は結構重要なのですが、とりあえず最初は、対象を上(音程として高い方)に見る数え方で覚えていきましょう。

両者を一度に覚えるのは大変ですので。

上記の図は、6、5弦にそれぞれのトナルセンターを置いた場合のものです、  
実際は、こういった位置関係は全ての弦で見ることができますよね。

これらを覚えていれば、他の弦とのインターバルの位置関係は、  
色々練習している内に、自然と見えるようになってきます。

過去のテキストでやった、インターバル把握のトレーニングや、コードの構造などを参考に、  
色々と考えていくと、スムーズに理解が進むでしょう。

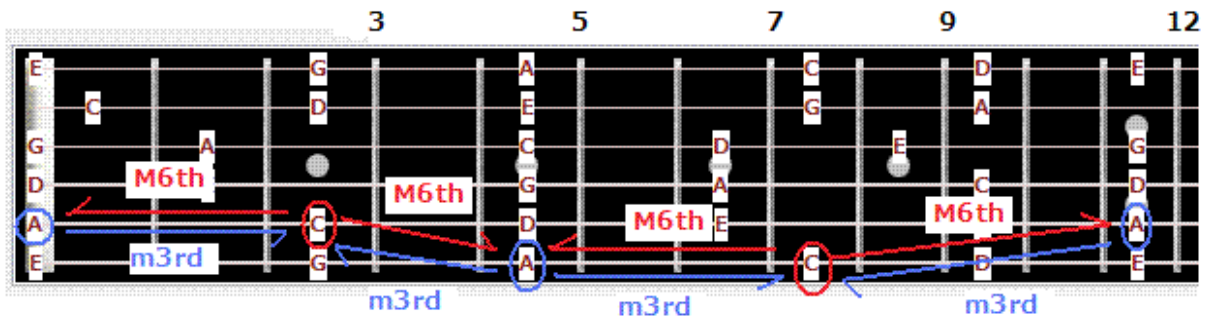
さて、色々と解説してきましたが、結局、実際のプレイの中で特に重要になってくるのは、  
最初に設定された楽曲のキーから見た場合の、リラティブ・メジャー or マイナーの  
トナル・センター(or トニック)の位置をすぐに把握できる事です。

要するに、

- ・メジャーキーのトナル・センター(トニック)から見た、  
リラティブ・マイナーのトナル・センターとその位置
- ・マイナーキーのトナル・センター(トニック)から見た、  
リラティブ・メジャーのトナル・センターとその位置

この両者の位置関係がパッとわかる事です。

先ほども少しお話ししましたが、この図などを参考に、今までやったスケールトレーニングや、  
ダイアトニックコードの知識などとリンクさせて把握すると、早い段階で覚えられます。



では、今回は以上になります。

ありがとうございました。

大沼